

実績報告書

届出者	住所	大阪府泉南市泉州空港南 1 番地	氏名	ロイヤルインフライトケイタリング 株式会社 代表取締役社長 梅津 光浩
特定事業者の主たる業種		9食料品製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第 3 条第 1 号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第 3 条第 2 号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第 3 条第 3 号イ又はロに該当する者	
事業の概要		1、航空機内食の調整 2、食品（弁当など）の販売 3、保税倉庫業		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間					
平成	27	年	4	月	1
			日	～ 平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)	

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	3,924 t-CO ₂	3,772 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量 (平準化補正後)	4,374 t-CO ₂	4,209 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (30 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	削減率 (排出量ベース)	0 %	0 %	0 %
		削減率 (原単位ベース)	3.9 %	2.7 %	4.2 %
削減率 (平準化補正ベース)		－ %	5.2 %	4.1 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容 (目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (売上食数)	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理

<p>生産食数は基準年度よりほぼ横ばいですが、エネルギー使用量は省エネ対策効果が表れ順調に減少基調です。</p>
--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

毎月の安全衛生委員会でエネルギー管理者から原単位の報告を行い、過去の実績と比較し削減意識を持つよう促しています。また、玄関ホールに削減目標・項目の掲示をしています。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	レ GHG排出	本社工場	コード(1111) 3社合併による各社数字管理	大阪の数値管理を担当を決め行う。	27年度 ～ 26年度
	レ 人工排熱				
	平準化				
2	レ GHG排出	本社工場	コード(1218) LED照明器具の交換	蛍光灯からLEDの照明器具に交換	27年度 ～ 30年度
	レ 人工排熱				
	平準化				
3	GHG排出	本社工場	コード(5231) 中央監視盤の活用	中央監視盤が現在受付にしかなくビル管理室にも端末を設置し運転管理を行う	27年度 ～ 26年度
	人工排熱				
	平準化				
4	GHG排出	本社工場	コード(1113) 管理部による空調運転管理	クールビズ・空調機の温度設定の取り決めを行い削減する。	27年度 ～ 30年度
	人工排熱				
	平準化				
5	GHG排出	本社工場	コード(1122) 冷凍・冷蔵庫の開閉留意	毎月の安全衛生委員会での推進、掲示により冷蔵・冷凍庫の開閉時間を最小限に抑える	29年度 ～ 30年度
	人工排熱				
	平準化				
6	GHG排出	本社工場	コード(5121) オフィスワーク対象者の変形労働時間制導入	本制度の挿入により、土日出勤ができることでピークシフトに貢献する	28年度 ～ 30年度
	人工排熱				
	平準化				
7	GHG排出	本社工場	コード(5113) 複合機使用実績の分析と対策	複合機メーカーから使用実績をもらい、部署ごとの使用傾向を分析。PDF・Nアップ等推奨し省エネを図る	29年度 ～ 30年度
	人工排熱				
	平準化				
8	GHG排出	本社工場	コード(1212) 洗浄機器の入替	洗浄機器を省エネ効果の高いものに入れ替える	0年度 ～ 0年度
	人工排熱				
	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	レ GHG排出	本社工場	コード(2121)	低燃費車への入替	27年度 ～ 30年度
	レ 人工排熱				

2	レ	GHG排出	本社工場	コード (2226)	車両のエンジンを停止し工場内から荷箱用の冷却電源を取る。 アイドリングストップ	29 年度 ～ 30 年度
	レ	人工排熱				
3		GHG排出	本社工場	コード (2123)	社内掲示にて省エネ運転を推奨 急発進・急停車の抑制	29 年度 ～ 30 年度
		人工排熱				

(3)その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大阪市北区中之島5丁目3番68号	氏名	株式会社 ロイヤルホテル 代表取締役社長 蔭山 秀一
特定事業者の主たる業種		75宿泊業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		宴会場・客室・レストラン・プール・販売店他を持ちサービス業を運営		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日	～ 平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(0)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	28,331 t-CO ₂	26,722 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	30,667 t-CO ₂	28,645 t-CO ₂
植林・緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (0 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3 %	5.7 %	5.7 %
		削減率(原単位ベース)	0 %	0 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	5.6 %	6.6 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	()
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>28年度は、タワーウイングのターボ冷凍機及び冷温水発生器2台を更新し、館内各所(宴会場一部・客室照明器具等)を省エネ効果の高いLED電球に更新する。 また省エネに対して各冷房機、各空調機の運転方法を効率良く考え実行するなど温室効果ガスの削減ができた。</p>	
--	--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

毎月、各部署別に動力光熱費(電気・ガス・水道の使用量)の分析表を配信し、全社的なエネルギーの合理化を推進すると共に、省エネ管理標準を基として、地球温暖化防止に努めている。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	レ GHG排出	リーガロイヤルホテル	コード(1211)	年間、2回のメーカーによる空燃調整を実施(平成28年度実施済み)	27年度 ～ 29年度
	レ 人工排熱		ボイラ空燃調整		
	レ 平準化				
2	レ GHG排出	リーガロイヤルホテル	コード(1218)	省エネ効果の高いHF型蛍光灯の利用及び電子安定器使用の蛍光灯器具に順次更新する。(平成28年度分実施済み)	27年度 ～ 29年度
	レ 人工排熱		照明設備の改修		
	レ 平準化				
3	レ GHG排出	リーガロイヤルホテル	コード(1218)	館内の非常出口灯・非常口誘導灯を順次LEDアンブタイプのものに取り替える。(平成28年度分実施済み)	27年度 ～ 29年度
	レ 人工排熱		消防設備(誘導灯)更新		
	レ 平準化				
4	レ GHG排出	リーガロイヤルホテル	コード(1113)	宴会場及びレストラン等の営業に合わせた機器類の運転時間管理を厳密にする。(平成28年度実施済み)	27年度 ～ 29年度
	レ 人工排熱		運転時間管理の充実		
	レ 平準化				
5	レ GHG排出	リーガロイヤルホテル	コード(1218)	宴会場の照度を設営時と営業時の値を決めきめ細かに管理する。(平成28年度実施済み)	27年度 ～ 29年度
	レ 人工排熱		照度管理の充実		
	レ 平準化				
6	レ GHG排出	リーガロイヤルホテル	コード(1124)	各二次側冷温水ポンプにインバーター制御を導入し電力の省エネを計る。(平成28年度実、計画のみ)	27年度 ～ 29年度
	レ 人工排熱		冷温水温度管理		
	レ 平準化				
7	レ GHG排出	リーガロイヤルホテル	コード(1216)	各空調機にインバーター制御を導入し電力の省エネを計る。(平成28年度実、計画のみ)	27年度 ～ 29年度
	レ 人工排熱		空調設備の改修		
	レ 平準化				
8	レ GHG排出	リーガロイヤルホテル	コード(1218)	館内確照明器具を省エネ効果の高いLED電球の利用に順次更新する。(平成28年度分実施済み)	27年度 ～ 29年度
	レ 人工排熱		照明設備の改修		
	レ 平準化				
9	レ GHG排出	リーガロイヤルホテル	コード(1124)	クーリング900KWポンプ冷凍機の更新工事を実施し、運転効率を改善する。(平成27年度は、計画のみ。28年度にて実施済み)	27年度 ～ 29年度
	レ 人工排熱		熱源機器の更新		
	レ 平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	レ GHG排出		コード		年度 ～ 年度
	レ 人工排熱				

(3) その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大阪府大阪市生野区巽西1-8-1	氏名	ロート製薬株式会社 代表取締役 社長 吉野俊昭
特定事業者の主たる業種		32 その他の製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		医薬品・化粧品・機能性食品等の製造販売		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	4,659 t-CO ₂	3,439 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	5,135 t-CO ₂	3,805 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3 %	1.3 %	26.2 %
		削減率(原単位ベース)	0 %	0 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	1.7 %	25.9 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ()	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

<p>第2年度は26%と大幅な削減となりました。これについては、環境配慮行動の実施及び省エネルギー型機器への代替が順調に進んでいることに加え、2016年度は製造環境の変化による影響と考えられます。今後もより一層削減に努めていきます。</p>	
--	--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

エネルギー管理統括者・エネルギー企画推進者の方針のもと、主に総務グループ及び生産技術部が担当し省エネ活動を実施しています。また、年1回省エネ報告及び検討会も実施しています。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
	GHG排出	人工排熱				
1	レ	GHG排出	大阪本社	コード (1218) 高効率照明器具への更新	設置年数や稼動状況を考慮し、積極的に高効率照明器具へ更新していく。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	大阪本社	コード (1215) 変電室 高効率変圧器への更新	設置年数や稼動状況を考慮し、積極的に高効率変圧器へ更新していく。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	大阪本社	コード (1216) 旧型エアコン更新	設置年数や稼動状況を考慮し、積極的に高効率エアコンへ更新していく。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	大阪本社	コード (1211) ボイラーの更新	最新の高効率ボイラーに更新していく。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	大阪本社	コード (1113) 圧縮エアールール・供給時間等の改善	圧縮エアールール・供給時間等の改善	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
	GHG排出	人工排熱				
1		GHG排出		コード		年度 ～ 年度
		人工排熱				

(3) その他の抑制対策
